

サンマ豊漁續きで

各濱漁船天手古舞

目下鹽釜に續々水揚げ中 相場は一尾四錢の高値……

サンマの漁場岩手縣トドロ
崎沖合二百七十哩附近に出
漁中であつた本縣各濱大型
サンマ漁船は何れも豊漁で
昨日あたりからそろそろ宮
城縣鹽釜港に入港中である
が今廿六日小名濱水産試験
場に入つた無電によると鹽
釜水揚げ相場は一尾四錢見當
との事であるが續々鐵道に
より陸送されておるから今
明日中には平町市内の間屋
筋にも新鮮なサンマが姿を
現して一般の食膳に供され
るであらう

大浦の産業青年團

昨日發會式を舉行

石城郡大浦信用組合では組
合事業の發展を計るべく産
業青年團の組織中であつた
が最近會員百七十五名に達
したので是が發會式を昨廿
五日午後一時より同村小學
校に開會し團長に酒井貞三
氏、顧問として木村組合長
外四名を決定終つて會員は
毎月十錢の維持費を出す事
購買事業の促進を計る事、
家の光の普及を計る等の決
議をなし散會した

産馬臨時總會

蓄産馬組合では来る廿六日午

四倉の暴風

石城郡四
倉町では
義捐金支給
倉町では
今回縣より割當てられた七
年度暴風雨義捐金五十九圓
を昨廿五日午後一時より同
役場に於いて被害者四家ま
さ外七十七名に配分した

時局意見發表

石城
郡鹿島村青年團では去る廿
三日午前九時より同村小學
校に秋季總會を開き役員改
選、會計報告等あつて團員
の時局に關する意見發表を
行つて散會した

郡南晚秋繭

出廻り期に入る

石城郡南勿來方部農村の晚
秋繭は愈々出廻り期となり
相場も貴當り四圓四五錢
見當を豫想され收購量も昨
年より一割弱の増加と見ら
れて居るので勿來商市場は
本廿六日より取引を開始し
た

内郷衛生會議

石城
郡内郷村衛生區長會議は來
る廿八日同村役場に開かれ
秋季清潔法執行に就いての
打合せを行ふと

第三區兒童

陸上競技 平各校選手決定

當日の活躍を期待さる

既報來る十月一
日午前八時より
磐中グラウンドに
開催される石城第三區小學
校兒童競技會の委員會は本
日午前八時より平第一校に
於て開き各校の選手名簿交
換其他競技上に關する種々
打合せをなしたが平町各小
學校に於ける出場選手は左
の如くである

第一

- 五年(百米)齊藤
義孝 新妻喜太郎
(四百繼走)金子博
齊藤義孝 新妻喜太郎
野川讓(走巾跳)齊藤義孝
新妻喜太郎(ボール投)野
川讓 佐藤大△六年(百
米)佐藤喜一 關口靖夫
(六百繼走)阿部洪祐 鈴
木保光 佐藤喜一 加藤
富士彌(走巾跳)佐藤滿夫
山崎福次郎(ボール投)田

小名軍事講演

石城
郡小名濱青年訓練所では來
る廿八日午後二時より同町
小學校に於いて軍事講演會
を催すと

巡廻診療班

來月の行診日割

平署駐在巡廻診療班第二班は
來月一日の鹿島村を振出し
に工記日割で巡廻診療を行
ふ一日鹿島、二日箕輪、三
日永戸、四日川前、七日具
宿、八日荷路夫、九日石住

中忠太郎 關内弘吉(ハ ードル) 佐藤喜一 田中 忠太郎△高一(二百米)佐 藤善一 中島利夫(八百 繼走) 中島利夫 佐藤善 一 五十嵐吉郎 先崎消 一(三段跳)塚本慶治 馬 場一夫(ハードル)古市英 雄 五十嵐吉郎(ボール 投) 吉田昌夫 綠川重春 △高二(二百米)瀬戸利夫 寺田久(八百繼走)寺田久 井上朝 石川武雄 瀬戸 利夫(ハードル)石川武雄 吉田猛(ボール投)小椋次 男 田山好雄

俵米共販シリ安

四等建値八圓廿八錢

石城販賣利用組合大浦倉庫
の共同販賣は昨廿五日同所
で行はれ總數百三俵を入札
せる結果四等建値八圓二十
八錢を以つて四倉町佐藤熊
藏氏に落札されたが前回に
比較して一俵に付き十二錢
の安値を見た

飯野村々會

匡救事業決議

石城郡飯野村では昨廿五日
村會に附議せる結果豫て縣
より内指令の有つた同村北
白土地内道路の匡救事業を
工費二千三百圓にて着手す

四倉市況

(昨二十五日)

四倉商市場の昨廿五日の取
引數は總數四百一貫百四十
匁で最高が五十五圓八十錢
最低が三十九圓四十三圓
六十錢である

平町人事

回出 生

- △銀治町二五 酒井政之助
氏四男信一
△三丁目一二 鈴木四郎氏
二女智子
△南町一 眞木光邦氏二女
順子
△新川町二一 田中武雄氏
長男文雄

回死 亡

- △六間門五 戸主東條祐一
(五七)
△一丁目一二 戸主森下下
ミツ(五三)
△三丁目三十 當時双葉郡
富岡町字驛九六高橋末松
(五一)
△村木町一四 戸主藤田寅
松(四八)

見習看護婦募集

(平町某醫院)

姓名在社

電話の聲で

景気打診

漸次市中の景気が

立直り初めた現れ

市中の景気が漸次立直つて来て居るのは電話でもハッキリ判りますと戸石平郵便局長は、前提して語る「適確な回数は申されませんが電話利用即ち通話の回数が昨今日立つて多くなつて來ました、殊に東京方面との市外通話が例年以上に激増して居るからです、また電話機の撤去であります、これは賃借に依つて電話をつけて居る使用

第三校増築落成祝賀は

來月一日開催

本日竣工検査を終へて

平第三小學校増築落成に就き本日午前十時より増築委員 鈴木光吉、馬目武之助、松崎長太郎、根本品藏、荒川淺次郎、佐藤幸太郎、小野伊佐治、石山治三郎、吉村安次郎、緑川喜三郎、猪狩觀徳、の諸氏參集竣工検査を終へ祝賀會開催に關して協議の結果來月一日午前十時より

用者が其賃料に因を爲しての撤去が今年春頃まで相當ありました處最近はそのが全くなくなつたのも景氣來を物語つて居ると思ひます夫れに

最近、賃料設定等が

全然ありません、これも低金利の融資が行き渡つて商工業者の營業振りに堅實味を加へた喜ばしき現れです

小泉中將を迎へ

平郷軍大講演會

來月二十日平第一校で

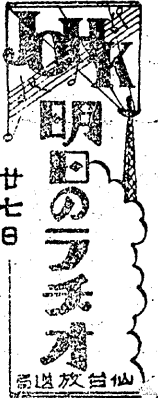
平在郷軍人分會では帝國軍人後援會福島支部の後援で來月廿日午後六時半より軍人後援思想普及の講演會を平第一小學校に開催する事になつたが講師は陸軍中將小泉六一氏である

輜重大隊來郡

海岸附近で演習

二十九日石川郡に向ふ

既報仙臺輜重第二大隊の人員三百名馬匹百五十頭は秋季演習の爲め廿六日夜四倉町に入り廿七日小名濱町に至り一宿廿八日には小名濱玉川鹿島附近にて演習



明日の天気 今晩も明日北東の風晴曇半

今晚の部

- 後六、〇〇 (子供の時間) ラヂオ紙芝居「お伽島」(第二回) 山野一郎
- 後六、二五 基礎佛語講座 (五) 目黒三郎
- 後七、三〇 講演「改正恩給法に就いて」恩給局長 樋貝詮三各局の夕
- 後八、〇〇 琵琶「澤陽江

明日の部

- 前六、三〇 基礎英語講座 (八) 岡倉由三郎
- 前九、一〇 料理献立「半熟卵焼き」中村光三
- 前一〇、三〇 家庭メモ H.K. 放送部編輯
- 前一〇、三五 家庭講座「盛物の話」佐藤清月
- 後〇、〇五 滿洲より「滿洲に於ける軍用犬の状態に就いて」關東軍獸醫部長 一等獸醫正渡邊中
- 後二、〇〇 家庭大學講座「現代日本畫の傾向」川崎

五日同町堀坂を中心として同鎮在郷軍人及び青年團員の野外演習を行ふ可く目下準備中であるで指揮者は警中大井川、平商駒場兩配屬將校で當日は市街戦を試みる豫定である

本郡聯合教育總會

本郡聯合教育總會は來月十一月十二日平第一小學校講堂に於て總集會を開き會務の報告、研究發表及び三十年以上在職者の表彰並に講演會を催すが講師は目下交渉中である

玉川の強盜

萩田に十二年

今日平支部で言渡し

既報栃木縣那須郡黒羽町生れ目下石城郡赤井村大字赤井字畑子澤萩田新之助方炭礦抗夫前科三犯萩田寅之助(三)が玉川村地内街道に於て同村長瀬愛子(三)さんを襲つた強盜事件の判決言渡し公判は本日午前十時より平支部に於て中島才判長係り關口香西兩判事部席清田檢事立會の下に開廷されたが才判長より懲役十二年を

磐中平商の發火演習

今年から對抗

磐中及び平商では毎年十一月初旬兩校別々に發火演習を行つたのを今年は對抗して行ふ事になつたので目下兩配屬將校は之れが策戦に就いて極密裡に考究中であるが第一回の對抗演習の事として果しては勝つて非常に興味を以て迎へられてゐる

平職案紹介所報告

- 回人を求める方
- △商店員 十八才 尋卒 仕着外三圓(内郷村某)
- △仕出し見習 十五才 尋卒 給料面談(平町某)
- △菓子製造見習 二十以下 尋卒月五圓(平町某)
- △小店員 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- 回職を求める方
- △雜夫 四十八才 高卒 給料面談(石川郡某)
- △事務員 二十七才 佑賢 一修 給料面談(平町某)
- △機關手 二十六才 高卒 給料面談(平町某)
- △測量 四十五才 工手卒 給料面談(神谷村某)

銘劍秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第四十九回 血に飢ゆる村正

四人とも雲を霞

勘「實は多七と二人旦那に助けてお貰ひ申さうと思つて、昨夕お前さんのお宅へ参つた所が今云ふ通りの次第大方明日は歸んなさるだらうと清助がいつたに依つて若い者を連れて途中まで出て居りました、御無理だが旦那一ツ助けて下せえ」

次「お前さん方は滅相な事を仰しやいます、御近所に居るだけの事で年中には何の彼のと仰しやるゆゑ少々位の事はして置きました夫に、助けて呉れの何のと仰しやつても私には分りません」

多「旦那分らねえ事はねえや、ホンの四人で出て行く錢を幾らでも旦那の思召しでお貰ひ申したいといふ事でございます、多分の事は入りませんどうか四人が支度をして行くだけの事をお願ひ申します」

次「支度にもいろ／＼ございますが然う多七さんが仰しやるならば手前の心ばかりでございます、御氣にも入りますまいがどうぞ是で御勘辨なすつて下さい」と次郎左衛門は懐中から三夕の銀玉を四ツ取州紙

に包んだ腹太の多七の前へ出しました、多七は受取り押戴き

多「勘五郎是ア何うだい」
勘「何だ、三夕銀玉を四ツか」
多「アアアア十二夕だ佐野の大盡も大層はづみなすつたなア……モシ大盡はやア何にするのでございませう」
次「お前さん方が支度をして遠國へ行くと仰しやる故ホンの支度代に差上りました一人前三夕の支度なら随分立派でございます」



次「イエそんなに禮を仰しやるほどの大金ではございません」といふ中多七は紙を開き勘五郎の前へ出し

江戸から歸るにやア少くも二百や三百の金はキツト持つて来るにねえ、四の

五の云はねえで胴巻ぐるみ出して丁へ、愚圖々々するに入らねえ命まで貰はにやアならねえ」
勘「ヤイ商人とは云ふもの、佐野の船橋の大盡ぢやアねえか人を見損つて銀玉たア何の事だ早く出して丁へ」

次「お前方は怪しからん事を云ひなされる、大地を三尺掘つても錢一文出る氣遣ひはない夫にお前方へ三夕ツツやりやア澤山だ、そんなこわもてをしても然んな事で驚いて金を出すやうな次郎左衛門ぢやアございません、夫が氣に入らなけりやア返して下せえお汁の實を買へば一年位は澤山だ」

多「何だと返して呉れといふなら端金返してやる其の代り荒い仕事もしにやアならぬえ」
勘「多七そんな事を愚圖々々いつて居る中に人が来る」と面倒だやつちまへ」

多「よし覺悟をしろ」
と突然に差したる長刀を引つて抜き、次郎左衛門へ切り付ける、今は何とも仕方なく逃げやうとする其中に二人の子分は後へ廻りメツバの勘五郎は成だけなら殺さねえで金さへ取りや好いと逃げやうとする次郎左衛門の足を拂つて打倒す、上へ跨がる腹太多七、二人の子分は手を押へ足を押へて居る中に勘五郎が次郎左衛門の懐に手を差入れ胴巻を解かうとするゆゑ次郎左衛門も一生懸命

と聲を上げるその口を押へながら勘五郎が胴巻を取らうとする、頻りに争つて居る處へ、その聲を聞きつけて駆け来たのは都築武助、一刀キラリと抜くより早く上へ跨る勘五郎の首筋ハタと背打でひつばたきました、腹太多七が何をすると向つて来るのを武助高茂が足をあげてした、かに蹴つたので多七は夫へ仰向けに反る、二人の子分が右左から向て来たが、忽ちピシリピシリ背打を食つて命辛々雲を霞と逃げて行く、メツバの勘五郎も腹太多七も命辛々逃げて了ひました様子を見て居た次郎左衛門は餘りの事に武助の腕前實に恐れ入つたと見えて大地に手を突き頭を下げる

武「町人どうした驚いたらうな」
次「旦那様有難う存じます貴方様がお出でございませんければ金ばかりか命まで取られる所でございました危い所をお助け下さいませんで御禮の申上やうもございません」

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫
電六三〇番
申込次第規則書進呈

玉屋洋品店
平町田町通電話五六六番

秋の流行は三井
本場銘仙の各種
斯界の新柄
三三三型シヨール
毛斯リン着尺の粹

三井呉服店
電話三〇八

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

専門
産婦人科
花柳病科

井坂醫院
平町田町 電話五五九番